【2024 年度 中間レポート奨学生の声】

奨学生 A さん

・この度は、貴財団からのご支援のおかげで、学生生活を充実して過ごせております。 現在、学んでいるオペラ専攻では授業や稽古に取り組む時間が多く、通常であれば学業とアルバイトの両立で練習時間を確保するのが難しい状況ですが、奨学金のおかげで、練習と学びの時間を十分に保つことができております。また、現在執筆中の論文に集中する時間も確保でき、より深く音楽を追求する機会をいただいております。 先日、大学のオペラ定期公演では出演した際に、カーテンコールで、大きな拍手と歓声をいただき、今後さらに成長し続けるためのモチベーションになりました。

奨学生 B さん

・ついに、最終学年である大学 4 年生となり、大学生活も残りわずかとなりました。だからこそ、これまで以上に自分自身と真摯に向き合い、日々将来について深く考える上で時には悩むこともありましたが、努力し続け夢に一歩近づくことができた半期であったように感じます。 私自身、将来は高等学校の音楽の教員として、地元で勤務し、音楽教育を発展させていきたいという夢があります。大学 4 年間の間、その思いは揺らぐことはなく、技術力、人間力共に磨き続けることができたように 感じます。そして、今年は念願の教育実習があるということで、最善を尽くしたものの、理想と現実の差を目の当たりにし、果たして自分は将来、教員として頑張っていけるのだろうかという不安を抱いてしまったのが正直なところでした。しかし、その不安よりも、音楽を通して想いを人に届けること、人と人とが繋がることの尊さを、教員として生徒に伝えていきたいという思いの方が大きかったです。だからこそ、今はまだまだ未熟で未完成である自分を受け入れた上で、足りないところ、改善すべきところから目を背けず、努力することができたように感じます。そして、私の熱い思いと努力が結びついたおかげか、ありがたいことに、地元の教員採用試験で中学校・高等学校の音楽枠に合格することができました。教育実習から教員採用試験にかけて、本当に簡単ではないことばかりで、時には心が折れそうになってしまった時もありましたが、自分を信じて努力したことは決して無駄ではなかったと強く実感しています。先生方のご指導、友人、家族の支えは勿論のこと、何よりも金銭面の不安を抱えることなく、勉学に打ち込むことができる環境を整えてくださった貴財団の支えがあったからこそ、今の私が存在して

いるということを忘れず、今後も奨学生として相応しい人間であるよう、日々成長していきたいと思います。

奨学生Ｃさん

・奨学金を利用させて頂き、昨年度はできなかった様々な経験や学びを得ることができました。県外のコンクールに参加することで、関東圏で活躍されている奏者と交流することができ、人脈を更に広げることができました。リサイタルや演奏会等の演奏活動を行う中で、人との繋がりが広がりました。引き続き、学生生活や演奏活動を両立して取り組みたいと思います。来年度は、積極的に音楽に関する講義を多く受講し、更に音楽に関する様々な専門的知識を多く取り入れ、音楽に対する理解を深めたいと思っています。また分析や理解をするだけでなく、大学では学んだことが演奏を通して実践できるため、大学が主催するコンサートや発表会等にも積極的に参加させて頂き、講義等で学んだことを演奏を通して理解を深めていきたいと考えています。また私はプロのオーケストラ奏者になりたいと考えているので、この目標に近づけるように、県外のコンクールに多く挑戦して、周りの奏者からの刺激を受けたり、目標への視野を広げたりしたいと考えています。またコンクールやレッスン、講義で学んだことを生かして、オーケストラのオーディションを受け続けていきたいと考えています。

奨学生Ｄさん

・前期の活動を通して、修了演奏会に向けてだけでなく、今後の音楽家としての人生の糧になる体験や努力が、学生という立場で実行できていることに、改めて感謝の気持ちを持つことを第一に、今後も活動していきたいです。毎日が試行錯誤の日々で、学生生活のかけがえのない貴重な体験をさせてもらえていると感じています。現在、アルバイトは週末に約１０時間程度で、平日は大学でとても有意義な時間を過ごすことができています。今までは生活や時間に余裕が無く気づけなかった研究課題や、自分がやりたい研究を思うように進められています。この自分の研究を今後どの様に生かし、どのように社会に貢献できるか考え、実行することが奨学生のあるべき姿であり、義務であるとも日々感じています。将来は、自分の下の世代の教育に貢献できるような人材になりたいと思います。そのためには、今自分がやるべきことを思う存分にやりきり、経験を積んでいきたいと思います。「生涯学習」をモットーに、常に学ぶことを一生の目標として今後の残り少ない学生生活を送りたいと思います。

奨学生Ｅさん

給付して頂いた奨学金を使用し、夏季休業期間に大学卒業後のヨーロッパ留学を見据えて、ヨーロッパでの講習会に参加させていただきました。約２週間滞在し、日本とは異なる文化、価値観に触れることができ、自分の音楽観が大きく広がりました。また、ヨーロッパ諸国の著名な教授によるレッスンを複数回受講でき、推薦コンサートにも出演させていただきました。各国の先生方からいただくアドバイスは視点が様々で、自分の中で長年取り組んできた曲でも新しい発見が多くあり、今までにないほど充実した期間を過ごすことができました。また、ヨーロッパからの参加者とも繋がることができ、留学についての情報、現地での生活のお話を聞けたことも大変貴重な時間となりました。
ヨーロッパの音楽学校の入学試験に合格することができましたら、最初は生活するだけでも精一杯な状態だと思いますが、学校生活だけではなく、演奏会や教会に訪れたり、色々な文化的な刺激を沢山得て、自分の音楽に繋げたいです。また、国際コンクールにも積極的に挑戦するために、自身のレパートリーを広げることにも力を注ぎたいと思っております。